



松本市長 菅谷 昭

「健康寿命延伸都市・松本」の 総仕上げに向けて

市議会6月定例会 提案説明から

※提案説明の全文は、市ホームページをご覧ください。

地域づくりの推進

「地域づくり」につきましては、これまで築いてまいりました、各地区におけるまちづくり協議会や地域づくりセンター体制を活かし、昨年策定いたしました「第2次地域づくり実行計画」に基づき、「具体的な課題解決の仕組みづくり」を目指して、取り組みを始めております。

とりわけ、平成31年度までに35地区での稼働を目指しております「地域包括ケアシステム」は、昨年度、モデル地区における具体的なノウハウを中心にまとめました「支援ガイド」を参考に、それぞれの地域における実情に合わせた「地域包括ケアシステム」となりますよう、各地区の地域づくりセンターを中心に、部局横断の体制を築きながら、鋭意進めてまいります。

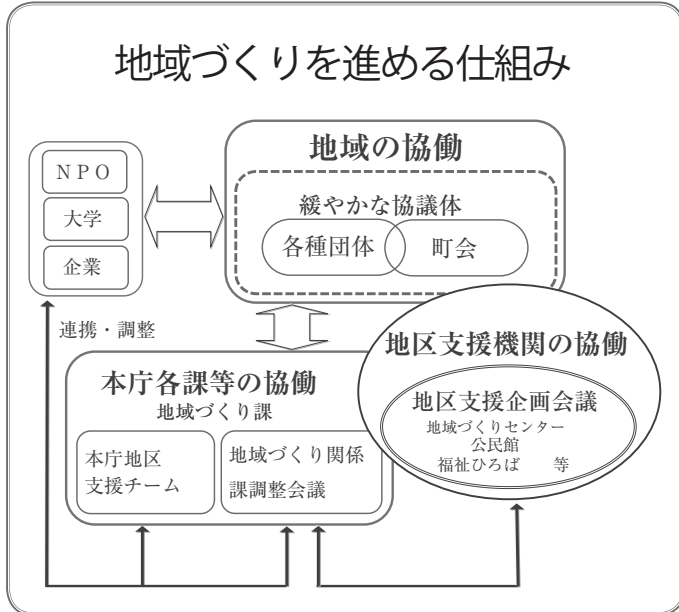
また今後、地域づくりセンターが地域の課題に、より効果的に取り組んでいくため、

この度、センター長の権限やセンターの組織体制など、地域づくりセンターのあり方について、検討を始めたところです。

地域づくり
インターンシップ戦略事業
平成27年度から活動してき

たインターン1期生5人が本年3月で任期満了を迎え、大変嬉しいことに、5人全員が、松本の地で就職、あるいは起業などをされ、新たな活躍の場へと巣立っています。
本年度は、新たに4期生3人が加わり、現在9人の若者が担当地区において、「地域づくり」を

地域づくりを進める仕組み



実践しながら、大学のサポートを得て、研究活動を進めています。特に、そのうち2人は、松本市街地担当として、複数の地区での活動を通して、各自の研究テーマに沿った課題を探求しています。

お陰様で、住民の皆様からは、インターン生の活動に高い評価をいただいております。この度、これまでの活動などを「松本市地域づくりインターンシップ戦略事業報告書」として、まとめるところです。
今後、この事業を「実学」と「座学」を組み合わせた、松本市独自の取り組みとして、引き続き、地方から国を動かす気概を持って、全国に向けて発信してまいります。

ものづくり産業 支援センター開設

松本市では、昨年度、市内製造業の持続的な発展の実現に向け、ものづくり企業や関係機関、行政それぞれが主体的に取り組んでいくための指針として、平成30年度から10年間を計画期間とする、新たな「松本市工業ビジョン」を策定いたしました。

この新たな「松本市工業ビジョン」を推進する中心的役割を担う機関として、これまでの「一般財団法人松本ソフト開発センター」に、「まつもと工業支援センター」の機能を統合した「一般財団法人松本ものづくり産業支援センター」が、本年4月1日に開設されました。この「ものづ

くり産業支援センター」により、多様化・高度化するものづくり産業の課題解決の機能強化を図り、松本地域の企業の持続的な成長を後押しするとともに、産業創発を加速させていくこととしています。
また、当センターでは、「ICTの活用によるものづくり産業の生産性向上」を目指し、平成31年度には松本市街地にコワーキングスペースやテレワークオフィス、サテライトオフィスなどを併設した拠点施設を開設し、運営に当たることとしています。

このような中、先行して、ものづくり産業支援センター内に「まつもとテレワークオフィス」が、5月11日に開設され、第一歩を踏み出したところとす。

今後は、「ものづくり産業支援センター」を軸とした産学官連携や産産連携、農商工連携など、企業と関係機関などの連携促進の取り組みや、コディネーターを中心とした中小企業に対する各種支援の実施などにより、松本市工業ビジョンに掲げた重点事項を強力に推進し、松本地域における産業創発の加速化や、ものづくり産業の振興を図られるよう期待をしています。